

# ごんた坂

## 第 13 号

～光陵会同窓会報～

<発行所>  
神奈川県立光陵高等学校  
光陵会

<印刷所>  
株式会社アーツ



光陵会 会長 太田 秀和

私は国大附属横浜中から光陵高校に進み、合わせて6年間をすごしました。この6年間が現在の私の原点だと思っています。社会人となって久しいですが、世の中の流れは明らかに変わってきました。

我々の時代は、与えられた材料を効率的にしかも短期間でまとめ、最大の成果を出せる人が「できる人」だったように思いますが、現在は自分で考え、材料を捜し、目標を設定し、最大限の結果を出せる人材が求められています。

もちろん、変わらないこともあります。誠実さ、礼儀正しさ、チームワークを大切に、相手を思う気持ちを持つことなどです。

この変わらないものは、中学・高校ぐらいの若い時期に確立されるものだと思います。私が高校時代が一番好きで、高校の仲間が一番大切だと思うのは、正にこの時期を共有しているからではないでしょうか。

仲間から多くの刺激を受け、多くの失敗をしました。しかし努力した結果の失敗は、多くの仲間が認めてくれました。勉強・スポーツ・読書など競争もたくさんしました。そしてその多くに敗れました。悔しさも挫折もたくさん味わいました。社会に出ることに不安を感じた時期もありましたが、この6年間で培ったものは、どこに行っても通用することに驚かされました。そして同時に社会でやっていけるのだという自信にもなりました。

この会報作りに携わってくれている光陵卒業の若いボランティアスタッフの皆さんも、活動中に多くの壁にぶつかっていると思いますが、それらが必ず将来役に立つ時がくると信じています。皆さんの努力に心から感謝いたします。



光陵高校 校長 鈴木 俊裕

この4月より光陵高校の第15代目校長として着任いたしました鈴木です。初めてのご挨拶ということもあり、本校の目指す「人間力」－生きる力－の育成に向けて「学校力、生徒力、教育環境力」についてご説明させていただきます。

1、**学校力** 「かながわ教育ビジョン」をふまえ、学校に与えられた使命の実現に向けた学校方針を定め実践しています。主なものとして、平成24年度から始まる横浜国大教育人間科学部附属横浜中学校との連携型中高一貫校に向けて、教育実践モデルの実践や国大との教育活動の推進、その実現に向けた校内組織の改革と組織の活性化、開かれた学校づくりの推進、地域連携等を行い、学校全体としての力を高めています。

2、**生徒力** スーパー高校（県指定10校）学力向上進学重点校として、学習指導要領をふまえ、「生きる力」を身につけ、社会の変化に柔軟に対応できる力を培うために、OECDが定義した「知識基盤社会」に必要な「キーコンピテンシー（主要能力）」の定着を目指した教育活動を推進しています。これは、今まで、知識の習得にのみ重きが置かれていた学力観から、これまで出遭ったことのない課題に対して、習得した知識・技能を活用し、自ら考え、主体的に判断するといった「習得・活用・探究」型の学力の育成・推進を積極的に行うということにほかなりません。そのために教員の授業力の向上を始め、学校独自の入試問題導入、90分授業の導入、朝・土曜講習、夏期講習等、生徒の学力向上に向けた取組みを行っています。このほか、次のような活動を進めています。

- (1) 県総合教育センターとの共同事業による、授業改善と評価活動の取組み
- (2) キャリア教育拠点校として体系的、計画的なキャリア教育の取組み
- (3) 生徒会活動及び部活動の活性化、人権教育と規範意識の醸成

3、**教育環境力** 安全・安心を目指した教育施設の整備・充実に向け活動をスタートさせました。

今後も、常に歩みを止めることなく前向きに、本校の目標の実現に向けて、先導的な役割を果たすべく努力を重ねてまいります。本校の発展に向けた教育活動に対するご支援・ご協力をお願いいたします。

## ☆ 総会・懇親会の時期が変わります ☆

例年、11月の土曜日に行われることの多い光陵会総会・懇親会ですが、11月の開催は今年度を最後として、来年度以降は5月～6月の開催とすることを考えております。これは秋に光陵祭や校歌祭といったイベントが集中してしまい、事務局の仕事が年間を通して偏ってしまっている現状を解消するためです。これに伴い会報の発行時期も4月～5月に変更することとなり、次回の会報は約半年後の発行となる予定です。総会時期変更に伴う会則改正は今年の総会の議題となりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 平成20年度 光陵会総会・懇親会のご案内

## 今年度も光陵高校での開催が決定!!

来る11月29日(土)に光陵会総会・懇親会を開催いたします。例年大好評をいただいておりますが、今年度も我が母校、光陵高校で総会を開催することが決定いたしました。ぜひこの機会に母校を訪れ、高校時代を思い出してみたいはかかでしょうか。

### ☆ 10期、15期、20期、30期の皆様へ ☆

今年、卒業30年、25年、20年、10年を迎えられる10期、15期、20期、30期の皆様には「卒業アニバーサリー期」として特にお集まりいただきたいと考えており、当時担任をされていた先生方にご出席をご予定いただいております。お世話になった先生方を囲み、思い出話を花を咲かせてください。

### ☆ 2次会に同期会・クラス会を開こう ☆

2次会に同期会・クラス会を開くのはいかかでしょうか?ぜひ年に1度のこの機会に同期会・クラス会を開いてみてください。光陵会では同期会・クラス会を行うためのサポートを行っておりますので、お気軽にご相談ください。

### ワークピアにて懇親会開催

また、総会終了後、タクシーで(光陵会でご用意いたします)ワークピア横浜に移動し、懇親会を行います。同期の友人との再会はもちろんのこと、様々な世代の光陵高校の卒業生との出会いがあるはず。多数の会員の皆様のご出席を心からお待ちしております。

## どうなる光陵? パネルディスカッション

今年度の総会では、横浜国立大学附属横浜中学校の高木校長、光陵高校の鈴木校長、光陵会の太田会長の3名によるパネルディスカッションを企画しております。中・高・大連携によって今後光陵高校をどのような学校にしていくのかということを中心に立場の異なる3名の方々に議論していただきます。光陵高校の卒業生にはとても興味深い内容になると思いますのでぜひご参加ください。

#### ○ 総会

- ・日時 平成20年11月29日(土)  
14:00(13:30より受付)
- ・会費 無料
- ・場所 「光陵高校 視聴覚室」  
(横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1)  
上履きは各自でご用意ください。

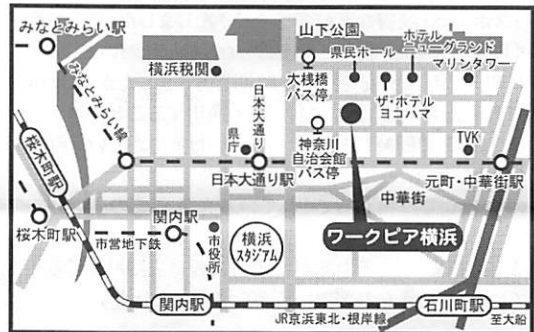
#### ○ 懇親会

- ・日時 平成20年11月29日(土)  
17:30(17:00より受付)
- ・場所 「ワークピア横浜」  
(横浜市中区山下町24-1)
- ・会費 一般料金 . . . . . ¥7,000  
特別料金 (現旧職員) . . . ¥5,000  
(ご夫婦) . . . ¥10,000  
(学生) . . . ¥1,000

※特別料金(ご夫婦)はパートナーが光陵高校の卒業生でなくても結構です。  
※高校生以下のお子様は無料ですので、ぜひご家族でお越しください。  
※ご不明な点がございましたら、光陵会ホームページまたは下記メールアドレスまでご連絡ください。

URL: <http://www.koryokai.jp/>  
MAIL: [staff@koryokai.jp](mailto:staff@koryokai.jp)

#### <ワークピア横浜 案内図>



#### <アクセス方法>

- みなとみらい線 日本大通り駅3番出口 徒歩 2分
- JR 根岸線 関内駅南口 徒歩 15分
- JR 根岸線 石川町駅北口 徒歩 13分
- 横浜市営バス 26系統・大機橋下車
- 8・58・125 系統・神奈川自治会館前下車

お手数ですが、ご都合の程を同封のハガキにて11月19日(水)までにお知らせください。また、当日の飛び込み参加も受け付けております。その場合、左記のアドレスまでご連絡いただければ幸いです。  
なお、当日は駐車場所をご用意しておりませんので、**お車でのご来場は固くお断り申し上げます。**  
(光陵高校から懇親会会場までの交通手段は光陵会で用意いたします。)

# キャリアガイダンス

平成 20 年 3 月 8 日(土)、光陵高校にて第 3 回「卒業生によるキャリアガイダンス」が実施されました。

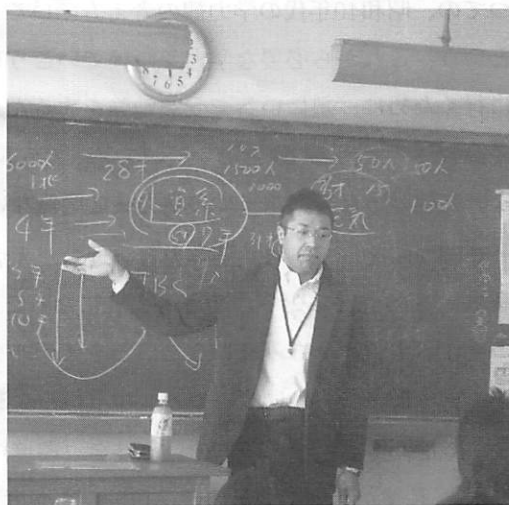
光陵高校ではすっかりおなじみのイベントとなったキャリアガイダンスですが、より良い内容のものを作り上げていくために、毎年試行錯誤を繰り返しているそうです。今回は生徒がより積極的にキャリアガイダンスに参加してくれるように、との願いから、各教室での司会・進行役をすべて生徒が行うことになりました。どこの教室でも少し照れくさそうな光陵生が講師紹介や質疑応答の司会をしていました。今回の講師数は 22 名と過去最多を記録しており、講師派遣の母体となっている「人材バンク」の充実ぶりがうかがえました。人材バンクへの登録は随時受け付けているので、ご興味のある会員の方は下記の連絡先にぜひご連絡ください。また、今回は前回同様、土曜日の開催となりました。これは現役社会人である講師側の要望を受けてのもので、様々な職種の講師をより多く集めるための取り組みといえます。

担当の蘇武先生によると「20～30 代の年齢の講師が不足している。社会人として一番忙しい時期だとは思いますが、脂の乗った仕事盛りの方のお話は生徒の刺激になると思う。生徒のためにも協力できる方にはぜひ来ていただきたい」とのことでした。

22 名の講師のうち、7 名がプロジェクターを使用したパワーポイントによる講義形式を取っており、講義の様子は大学での講義のようでした。学校側もスクリーンやプロジェクターなどの機材の充実に力を入れているようです。とある講師のお話では、高校生のうちからやっておいたほうが良いことの例として「1、挨拶 2、時間を守る 3、滑舌を良く 4、本や新聞を読む」を挙げていたのが印象的でした。この方は「大手旅行会社→外資系→電気系製造業」とキャリアを転々とされたそうで、その中で得られた経験からキャリアについての面白いお話をいくつもされていました。

## 職種リスト

薬剤師	国家公務員
臨床検査技師	自動車メーカー
ケアマネージャー	建設用機材レンタル会社
航空会社・地上職(運航関連)	フランス料理店経営
エンタテインメント会社勤務	大学院博士課程(薬)
企業内メンタルケア	設計事務所経営
外資系証券会社勤務	特許実務翻訳
理学療法士	中学校教師
公認会計士	広告代理店勤務
銀行勤務	製造業
総合商社勤務	裁判官
大学教授(日本美術史)	医師



登録・お問い合わせにつきましては

光陵高校(〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1)もしくは

光陵会同窓会長 4期 大道正夫(omichim@nifty.com)までお願いいたします。

# 中高連携で 光陵はどう変わる？

## ～横浜国立大学附属横浜中学校長に直撃インタビュー～

光陵高校と横浜国立大学附属横浜中学校の連携が発表されたのは、まだ記憶に新しい去年の春のことです。この制度を受けて光陵高校がどのように変わっていくのかは、みなさん興味のあるところだと思います。

そこで今回は、光陵高校の連携先である横浜国立大学附属横浜中学校の校長をお勤めになっている高木展郎先生にインタビューに行ってきました。高木先生は光陵高校の1期卒業生でもあり、我々の大先輩です。思い出話などを交えながら、インタビューは終始和やかに進みました。

—まず、高木先生にとって「教育」というのはどういったものでしょうか？

高木先生（以下高木） 生きていくために必要とされる知識や技能、それを学校で身につけること。だから知識の習得量じゃなくて、中心になるのは『自分で考える』ということだと思います。

—近年「PISA 型教育」という言葉をよく耳にしますね。

高木 そうそう。その読解力で附属中学校が日本のフロントランナーになるべく、本を出したりいろいろなことをしているんですよ。

—来年度入学者からこの連携の大枠が機能しだすわけですが。

高木 今、学力低下と言われ、高校が進学校を目指そうとしているけれど、その進学校というのもかつての、昭和40年代の学力観の考え方でいこうとしています。それは違うんですよ。『リテラシー』という、これから必要な学力をつけていこうじゃないかと。そのためには、例えば中学3年生が高校に行くために、塾にいつ受検勉強をするんじゃないかと、中学校がやっていることをそのまま評価して高校へ行けるっていう、そういうシステムができると思います。受験学力じゃないんですよ。会社行ったら大学までの学力って関係ないことが多いでしょ？

—確かにそうですね。読解力と論理力が大切ですね。

高木 そういうことを、できるようになることを目標としているんです。県も中等教育学校というものを作る中で、うちみたいところをモデルケースとしていて、そのための今回の連携モデルなんですよ。今後上手くいけば、もっといろいろな連携の形ができるようになるんじゃないかな。

—では、中高生にとってのいい社会（環境）とは、なんだと思われませんか？

高木 私達が提供できるのは、自分たちが考える場であるとか、チャレンジする場。それで例えば、失敗する前からやっちゃダメだと言って言うんじゃないかと、失敗したら、もう1回考えてみようかといえるような教育の場なんですよ。

—なるほど。

高木 「分かる人〜？」って授業で聞くのはやめたほうがいいですよ。それでは分からない人にはいくら経っても分からない。学校というのは分からないことを分かるようにする場所なんです。だから学校は間違えてもいいんです。「分からないこと」から「学ぶ」ということが始まっていくわけだし。「分からない」と言える場というのが、私は「教育の場」だと思っています。そういう意味では、行事は大事なんです。自分たちで考える場というのが。

——近年授業数の低下で行事を減らす学校も多いようですね。

高木 学力の考え方が変わってきているんです。指導要領が変わってきて、学力が 3 つに分かれます。「習得する学力」「活用する学力」「学習意欲」の 3 つ。「意欲」も学力になってきているんです。中学校ってそういう場だし、光陵高校も教え込み型の授業じゃなくなってほしいですね。

——大学などだと参加型の授業は多いですね。

高木 だからそういう時のための表現力の基礎をやっぴり小中学校の時は身につけなきゃいけないんです。もちろん、そのためには漢字を覚えなきゃいけない部分もあるし、判断のための知識を習得しなきゃいけない場面もあるけど、それで終わっちゃダメですよ。

——それでは、今回の連携についてのビジョンというものを教えていただけますか？

高木 それはもう、この通りですよ（中高大連携による基本構想案を指す）具体的には中学生には、表現力や判断力、文章を書くことを嫌がらなくしています。あとは「まとめる力」ですね。例えば、中学生には授業内容を 2 ヶ月や 3 ヶ月のスパンでまとめさせているんです。

——来年度附属中学入学者から 1 クラス程度の光陵高校連携枠を取る予定ですが、光陵高校から横浜国立大学への入学というのはどうなっていくのでしょうか？

高木 進学というのはまず考えないでもらいたいですね。国立大学に特定の県立高校から無試験で入るっていうのは今の制度ではできないんですよ。じゃあどんな連携をするかっていうと、大学の資料を使えたり、大学の教授が光陵高校で授業ができるとかそういったこと。既にテレビ会議システムも整備しています。まあ、まずは中学と高校がきちんと連携を取れるというのが現状大事なことで。その上で高大連携というのはどうあるのかというのをこれからの時間の中で少しずつ考えていくしかないかなと思います。

——6 年間連携教育という制度の中で、附属中学校がすべきこととはなんだと思いますか？

高木 基本的には、我々がやっていることは、そしてやっていくことは「リテラシー」です。もう我々は始めているんですよ。高校ではまだこの「リテラシー」という考え方が少ないようですね。今まで私達もってきた「学力観」というものが変わろうとしているんです。いわゆる「憶える学力」じゃない教育が展開しようとしています。これからは「考える学力」が大事です。そういった流れで、これから使う学力を全国に先駆けてこの連携の中で育てていってもらいたいなと思います。



——附属中学校は地域やOBとの関わりはどのようにとっていますか？

高木 附属中学校に関していえば、地域がないんですよ。遠くはあざみ野や相模大野、茅ヶ崎などから来ています。課外活動などは、近隣の商店街やOBの力を借りて体験学習などを行っている。OB会は今年で59期まで出ています。かなり助けてもらってますね。

——今回の連携に際して光陵会に望むことはなにかありますか？

高木 光陵会は光陵高校をバックアップしてくれればいいと思います。附属中学校には附属中学校のOB会があり、体験学習などのバックアップをしてもらっています。そうやってお互いが一緒になって大きくなっていければ、一番いいと思います。

——では最後に、光陵高校のOBとして、これから光陵高校にしていきたいことはなにかありますか？

高木 たまたま私は附属中学校が母校だし、光陵高校が母校で。だから今回私がいる時期にこういう連携ができたというのはとてもいいなと思っています。だから私がOBとしてできることは、こういうシステムの中でこの中学校をどうできるかということが、最大の役割だと思っています。

——高木先生、長時間ありがとうございました。

「学力」とは何か。その概念が変わりゆく中で学校が変わっていくことは必至です。その流れの中で私達光陵会の役割も変わっていくのでしょうか。

光陵高校がよりよい高校になるように、これからも光陵会一丸となってバックアップしていけたら、素晴らしいと思います。



# 青春かながわ校歌祭

平成 19 年 10 月 13 日。神奈川県立青少年センターホールに、光陵高校の校歌が響き渡りました。それは一桁期の卒業生から現役の高校生までが一つになり、ひと夏を通して練習してきた成果です。文字通り世代を超えた、素晴らしい歌声でした。

「青春 かながわ校歌祭」は、平成 18 年に始まったばかりのイベントです。コンセプトはズバリ「青春」♪ 神奈川県内の公立高校の同窓会が集まって、各校自慢の校歌や応援歌を披露します。今回は光陵高校を含む全 25 校が参加しました。

この第 2 回校歌祭開催の報せを光陵会事務局が受けたのが、今年の夏ごろでした。予算年度や年次予定調整の都合上、光陵会主導での参加は見合わせることになりましたが、OB の ML や SNS など校歌祭参加の熱が高まり、その結果、有志での参加が決定したのです。さらに光陵高校の現役合唱部員の協力も得ることができ、世代を超えた合唱団を結成することができました。

「校歌祭」は文字通りお祭りです。当日は各校の趣向を凝らした演出が、私達の耳と目を楽しませました。中には揃いの T シャツを作ったり、大太鼓を携えての大応援合戦をするなど、今となってはなかなかない「合唱をする機会」という物を、存分に楽しんでいただいているように思えます。

私達光陵高校は「光陵高校の歌」と「光陵高校応援歌」を披露しました。現役生や若い年代の OB・OG にとっては、応援歌は馴染みのないものになっていましたが、最終的にはお気に入りになったようです。帰り道に口ずさんでいる人もちらほら…。今年の「第 3 回青春 かながわ校歌祭」は 10 月 11 日に行われます。今年からは光陵会の定例参加行事としていっそう盛り上げていきたいと思えます。

今まで光陵会は、現役生との結びつきというところに、弱い部分がありました。そこでこの「校歌祭」という行事をきっかけに、もっと現役生に身近な存在になっていきたいという思いがあります。私達が現在にいたるまで受け継いでいる「校歌」という素晴らしいものを通じて、世代を超え、立場を超え、一つのものを、一つの時を共有できたら、これ以上素敵なことはないのではないのでしょうか。

興味をもたれた方は以下にご連絡ください。  
一緒に光陵高校の財産を歌い継いでいきましょう♪

[staff@koryokai.jp](mailto:staff@koryokai.jp)



## 部活動実績 (平成19年7月～平成20年6月)

部名	関東大会予選会	高校総体県予選	その他
サッカー			全国選手権大会 1次予選ブロック優勝 U-17 2部 ブロック5位
ハンドボール(男)			県選手権大会 Bブロック準優勝
バレーボール(男)	地区ブロック優勝		
バドミントン(男)		地区 シングルス 4位	
陸上競技	男子槍投げ 1位		
囲碁		県高校囲碁大会 ベスト32	県高校囲碁大会 ベスト8 関東大会 4位 関東地区高校囲碁選手権大会 3位 全国高校囲碁選抜大会 9路盤戦 優勝
演劇			県高校演劇発表会 優秀賞 春季演劇発表会 優秀賞、優秀演技賞 アフリカ開発会議記念公演 参加

## 進学実績 (平成19年度合格者数一覽)

### 国立大学

学校名	総数	現役
北海道大学	1	0
筑波大学	2	0
電気通信大学	1	0
東京医科歯科大学	1	1
東京学芸大学	2	1
東京工業大学	4	4
東京農工大学	2	2
横浜国立大学	11	7
合計	24	15

### 公立大学

学校名	総数	現役
首都大学東京	5	4
横浜市立大学	17	12
神奈川県立保健福祉大学	1	0
都留文科大学	1	0
合計	24	16

### その他

校種	総数	現役
短期大学	4	3
各種・専門学校	4	4

### 私立大学

学校名	総数	現役
国際医療福祉大学	4	2
青山学院大学	37	26
学習院大学	9	7
北里大学	11	5
慶應義塾大学	24	16
國學院大学	6	3
駒澤大学	9	7
芝浦工業大学	9	4
昭和女子大学	4	4
上智大学	12	6
成蹊大学	2	1
成城大学	5	4
専修大学	12	5
中央大学	26	17
東海大学	2	2
東京女子大学	6	3
東京電機大学	1	0

学校名	総数	現役
東京農業大学	19	17
東京理科大学	19	11
日本大学	26	16
日本女子大学	10	5
法政大学	28	21
武蔵工業大学	15	12
明治大学	60	45
明治学院大学	35	28
立教大学	31	20
早稲田大学	30	19
神奈川大学	18	14
東洋英和女学院大学	3	3
フェリス女学院大学	2	1
その他	76	54
合計	551	378

## 教職員異動状況

### 【平成20年3月 退職・転出者】

校長	柴田 哲(2年)
副校長	千葉 強(1年)
国語	田中 心美(11年)
理科	吉田 裕子(8年)
英語	島 武彦(9年)
家庭	佐々木智恵(12年)
家庭	渡邊 俊江(4年)
保健	松村 秀幸(6年)
副主任	松橋 善富(4年)
技能技員	渡邊 実(4年)
警備員	小林日出人(11年)

退職	新城高等学校(副校長)
	保土ヶ谷養護学校
	松陽高等学校
	横須賀大津高等学校(総括教諭)
	永谷高等学校
離任(非常勤講師)	
退職	新羽高等学校
	川崎高等学校
退職	

### 【平成20年4月 新着任者】

校長	鈴木 俊裕	和泉高等学校(校長)
教頭	佐藤 泰一	深沢高等学校
国語	小室栄里子	藤沢高等学校
理科	桃木 桂子	岡津高等学校
英語	畑山由紀子	
英語	衣笠 弘志	大師高等学校
家庭	野中 幹子	柏陽高等学校
保健	矢島 俊也	金沢総合高等学校
数学	遠藤 隆一	磯子高等学校
副主任	大津 勝	県央地区県政総合センター
技能技員	中村 正男	横浜立野高等学校
警備員	園田 潤一	



## 光陵会賛助金芳名簿

この度、光陵会運営のため賛助金を募りました。以下の通り、皆様の温かい  
お心遣いをいただきましたことを深く感謝いたしますとともに、ここにご報告い  
たします。

今後も引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。

太田 秀和 (2-2) 鈴木 篤史 (25-2) 山田 敬朗 (25-5) 川上 敏彦 (35-2)  
色川 泰広 (38-4)

## 総会時に賛助金をいただいた方

大道 正夫 (4-1) 山本 勉 (4-1) 石川 康子 (4-1) 古藤田謙治 (5-1)  
川越 桂 (5-2) 遠藤 主計 (6-3) 柳垣由紀子 (9-1) 中濱こずえ (9-4)

(敬称略)  
平成20年7月31日現在

2006年度決算		2007年度予算	
(収入の部)		(収入の部)	
入会費・終身会費	2,269,475	入会費・終身会費	2,300,000
懇親会会費	460,000	懇親会会費	400,000
賛助金	65,000	賛助金	20,000
名簿売上	24,000	前年度繰越金	15,883,488
前年度繰越金	15,879,639		
その他	39,030		
合 計	18,737,144	合 計	18,603,488
(支出の部)		(支出の部)	
通 信 費	971,421	通 信 費	950,000
印 刷 費	545,894	印 刷 費	570,000
事 務 費	37,579	事 務 費	25,000
運 営 費	421,888	運 営 費	400,000
交 通 費	128,280	交 通 費	120,000
懇親会費	425,226	懇親会費	450,000
HP運用費	18,569	HP運用費	20,000
備品購入費	304,799		
合 計	2,853,656	合 計	2,535,000
収支差額	15,883,488	収支差額	16,068,488

## 2007年度光陵会役員

会 長 太田 秀和 (2期)  
副 会 長 大道 正夫 (4期)  
山本 勉 (4期)  
理 事 古藤田謙治 (5期)  
藤原 真人 (22期)  
柿崎 祐一 (25期)  
藤原 直人 (31期)  
高 椋 敬之 (31期)  
関口 慎吾 (33期)  
監 査 上原 武 (25期)  
高橋 芳昌 (33期)  
事務局長 金子 周平 (38期)  
副 局 長 美濃部好徳 (37期)  
関口 陽介 (38期)  
会 計 増田 祐徳 (36期)  
会計補佐 萩原 史織 (38期)  
谷中絵理子 (38期)  
書 記 山田 悠 (35期)  
倉島 悠子 (38期)

## 賛助金のご協力をお願いします

毎年賛助金のお願いをしております。今年7月31日までに総計68,805円もの賛助金をいただき、役員一同皆様のご理解とご協力に感謝しております。このことにつきましては光陵会運営資金残高が1,000万円を超えていることから、さらに賛助金を募ることは疑問であるとの貴重なご意見もいただきますが、近年の少子化に伴う生徒数の減少により財政が逼迫し、長期的な会の存続が懸念されています。そのため、今年度も引き続き以下のように会員の皆様から賛助金を募ることにいたしました。何卒、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、お振込みの際は期・お名前を明記していただきますようお願いいたします。

1. 金額 1口 1,000円 何口でも構いません
2. お支払方法 横浜銀行緑園都市支店 口座番号:367-1187951 名義人:光陵会

### 《会員名簿の取扱について》

光陵会の名を騙り、会員の皆様への勤務先への問い合わせや勧誘・物品販売などが行われているようです。これらは光陵会とは一切関係ございませんので、内容をご確認の上、適切にご対応くださるようお願い申し上げます。

また、当然のことながら光陵会では第三者に会員名簿を配布するようなことは一切なく、会員各位の情報が外部に漏れることがないよう、細心の注意を払っております。皆様も名簿の取扱いには十分ご注意のうえ、外部への流出がないよう、ご配慮ください。

光陵会は2004年に5年ぶりとなる新規名簿の発刊をいたしました。まだご購入されていらっしゃる方で、ご購入を希望される方は下記までご連絡をください。発送の手続きをいたします。久方ぶりの同窓会に、ご協力できるのではないかと考えております。より多くの方のご購入をお待ち申し上げます。

宛先:「光陵会ホームページ」 <http://www.koryokai.jp/>  
「光陵会メールアドレス」 [staff@koryokai.jp](mailto:staff@koryokai.jp)

### 光陵会Webサイトのご案内

光陵会Webサイト(<http://koryokai.jp/>)も、おかげさまで今年で立ち上げて7年目となりました。一昨年よりサイトを一新・リニューアル公開して一層見やすくなっております。

年に一度の総会および懇親会の情報はもちろん、会報としてお馴染みの「ごんた坂」もより見やすくなって再登場しました。

また、今回の会報でも特集いたしました「キャリアガイダンス」のための人材バンク登録もWeb上で募集しております。そして以前から会報で募集している寄稿のコーナーを新たに設置、皆様からのお便りをWeb上で掲載しております。

リンク集も大幅改良、光陵高校公式サイトをはじめ、部活サイトも掲載。クラスサイトは申し込み制となりますので、管理人の方は是非ご登録ください。

スタッフ一同、より皆様に光陵高校の情報を提供できるよう頑張りますので、光陵会Webサイトをよろしく願いいたします。

### 《寄稿のお願い》

光陵会では皆様に楽しんでいただける会報を目指し、スタッフ一同、日夜努力しております。しかし、若い学生スタッフが中心となって動いていることもあり、どのような記事を書けば良いのか、頭を抱えています。

そこで、皆様に記事の元になるようなものを提供して下さるようお願い申し上げます。「私は今、こんなことをしています」「光陵のOB・OGでこんな活動をしている人がいるよ」などといったものなど、どんな些細なことでも構いません。ご協力をお願いします。「○○というのを開催しています」などの告知も募集しています。

また、光陵会のWebサイトにも寄稿のページを開設しました。こちらにも同様に寄稿を募集しておりますので、会報同様お気軽に下記「光陵会」までご一報ください。

皆様で会報をより良いものにしていきましょう。

※都合により、掲載のできない場合もあります。予めご了承ください。

宛先: 〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂1-7-1  
神奈川県立光陵高校内「光陵会」

### 《同窓生向けSNSのお知らせ》

URL: <http://www.koryo.gr.jp/sns/>  
MAIL: [koryo-kai-request@koryo.gr.jp](mailto:koryo-kai-request@koryo.gr.jp)  
運営: 光陵会メーリングリスト([koryo.gr.jp](http://koryo.gr.jp))

### あ と が き

光陵は今、中高連携という大きな動きの中にあり、高校としてひとつの転換期を迎えているように思います。今回のインタビュー記事や、総会でのパネルディスカッションはそういった動きを受けての企画であり、会員の皆様が変わり行く光陵の姿を少しでもお伝えできれば幸いです。また、光陵会としても光陵高校に対してできる限りのバックアップを行っていきたく考えております。

会報の発行に当たり多くの方々にご協力いただき、心より感謝申し上げます。会員の皆様のご多幸をお祈りしつつあとがきに代えさせていただきます。